

# 北見工業大学学報

第 269 号 (2015 年 5 月号)

## 目 次

入 学 式	平成 27 年度入学式を挙行……………	2
告 辞	平成 27 年度入学式告辞……………	3
入 試	平成 28 年度編入学学生募集要項の公表……………	5
	平成 28 年度大学院工学研究科博士課程学生募集要項の公表……………	6
研 究 助 成	平成 27 年度科学研究費助成事業内定一覧……………	9
	平成 27 年度共同研究の受入状況……………	12
	平成 27 年度受託研究の受入状況……………	14
	平成 27 年度奨学寄附金の受入状況……………	15
人 事	人事異動……………	16
諸 報	厚谷元学長に叙勲「瑞宝中綬章」を受章……………	19
	平成 27 年度北見工業大学技術セミナー(技術士養成支援講座)を開講……………	20
	北海道中小企業家同友会オホーツク支部総会第 2 部特別報告での報告……………	21
	北見工業大学社会連携推進センター推進協議会総会を開催……………	22
	地元企業合同説明会を開催……………	23
	文献検索講習会を実施……………	24
	平成 27 年度構内美化作業を開始……………	25
	オホーツク新エネルギー開発推進機構総会……………	26
	北見市産学官連携推進協議会総会……………	27
	オホーツク「木」のフェスティバルに参加……………	28
日 誌	4 月・5 月……………	29

## = 入学式 =

### 平成 27 年度入学式を挙

(総務課)

4月6日(月)、平成27年度入学式が午前10時から北見市民会館で行われました。

学部428人、学部編入学4人、大学院博士前期課程100人及び大学院博士後期課程7人に対して、高橋信夫学長が入学を許可した後、学長告辞を行いました。続いて、櫻田真人北見市長、永田正記大学後援会会

長、谷浩二同窓会会長、富田剛夫学生後援会会長から祝辞がありました。

更に、入学生を代表して、機械・社会環境系の齋藤晶さんから、今後の誓いを込めた力強い宣誓があり、式は無事終了しました。

なお、入学者数は次のとおりです。

#### 学部

系列名	入学者数(人)
機械・社会環境系	177
情報電気エレクトロニクス系	139
バイオ環境・マテリアル系	112
合計	428

#### 学部編入学

学科名	入学者数(人)
社会環境工学科	1
情報システム工学科	2
マテリアル工学科	1
合計	4

#### 大学院博士前期課程

専攻名	入学者数(人)
機械工学専攻	28
社会環境工学専攻	12
電気電子工学専攻	19
情報システム工学専攻	8
バイオ環境化学専攻	19
マテリアル工学専攻	14
合計	100

#### 大学院博士後期課程

専攻名	入学者数(人)
生産基盤工学専攻	2
寒冷地・環境・エネルギー工学専攻	2
医療工学専攻	3
合計	7



入学生代表宣誓

## = 告辞 =

### 平成 27 年度入学式告辞

新入生の皆さん、入学おめでとうございます。

北見工業大学の教職員、学生を代表いたしまして、私たちの大学の一員となった皆さんを心から歓迎いたします。

そしてこれまで皆さんを育て温かく見守って来られたご家族、保護者の皆様にもお祝いを申し上げます。

本日はご多用にもかかわらず、北見市長の櫻田様、大学後援会会長の永田様、同窓会会長の谷様、そして学生後援会会長の富田様にご臨席を賜り、入学式を挙行できますことに感謝申し上げます。

今年度は学部 428 人、学部 3 年次への編入学として 4 人、大学院博士前期課程に 100 人、博士後期課程に 7 人が入学されました。その中には、海外からの留学生 10 人が含まれます。

さて、入学生の皆さんが学生生活を営むことになるこの北見市は、豊かな自然環境にあるオホーツク地域の中核都市で、晴天の日が多い爽やかな土地です。北見市の周辺には、世界自然遺産に登録された「知床国立公園」をはじめとした 4 つの国立公園があります。本学は、そのような自然環境に恵まれた北見市に 1960 年に設立された工学部だけの単科大学で、「自然と調和するテクノロジーの発展を目指して」の標語を掲げ、特色ある教育・研究を進めております。

この「自然と調和するテクノロジーの発展を目指して」の標語は、1996 年から 2001

年まで本学の学長を務められた厚谷郁夫先生によって提唱され、使われ始めたものです。地方の国立大学である本学は、教育・研究面での特色をこれまで以上に明確にする必要があります。そのような状況下、この標語は本学にとって今後益々重要になると思っております。

この場で改めて申し上げるまでもありませんが、大学の最も重要な役割は学生の教育です。

学部に入學された 432 人の皆さんは、小学校・中学校の義務教育、そして高等学校での教育を経て北見工業大学に入學しました。高等学校での教育は義務教育ではありませんが、皆さんは大学受験という圧力の下、多くのことを「覚える」ことに集中してきたことと思います。それが実を結び、これからいよいよ北見工業大学での勉強が始まります。教室で先生から講義を受ける、そこまでは高校と変わりませんが、問題は皆さんがその内容に取り組む姿勢です。これまでのように「覚える」ことに集中するのではなく、大学では「自分なりに考えて」理解することが求められます。受身ではなく自分から取り組む姿勢が必要になるということを、よく理解してください。そしてしっかりと勉強して工学についての基礎学力を確実に身につけるとともに、主体的に問題を解決できる能力を身につけてください。本学は、国立大学の中では歴史の浅い若い大学であり小規模な単科大学ですが、教育・研究環境は恵まれた状況にあると認識しております。本学の施設・設備を十分に活用して勉学に励み、多くの知識を身に

つけてもらいたいと思います。

大学院博士前期課程に入学された 100 人の皆さんは、学部の 4 年次で経験した卒業研究を通じて、先ほど学部入学生に対してお話したことを十分に理解していると思います。皆さんには学部で修得した知識を基盤として、さらに応用開発に展開できる実践的な能力を身につけてもらいたいと思います。博士後期課程に入学された 7 人の皆さんには、専門分野の学術研究を積極的に推進することはもちろん、その過程で専門分野以外についても幅広い視野を培ってもらいたいと思います。そして科学技術立国を標榜する我が国において技術集団の核となり、次の時代を切り拓く人材となることを期待しています。

大学という場所は学業にしっかりと取り組む場所ですが、それに加えて様々な観点において人間的に大きく成長するための場所でもあります。本学において過ごす時間は、皆さんにとって大変貴重な時間です。時間を有効に使うとともに、引っ込み思案にならずに多くのことにチャレンジして、自分を大きくするよう取り組んでもらいた

いと思います。皆さんがこのような貴重な時間を持つのも、ご家族のご理解とご支援があつてのことです。周りの方々への「感謝の気持ち」を忘れることなく過ごしてもらいたいと思います。

先程、本学は若い小規模な大学と述べましたが、これまでに 16,000 人を超える卒業生を社会に送り出しています。卒業生は日本全国においていろいろな立場で活躍しています。本学はこれからも多くのことにチャレンジし、皆さんと一緒に成長していく大学です。皆さんもこの大学の一員になったことを自覚して、教職員共々、北見工業大学の発展を目指して一緒に行動してもらいたいと思っています。

結びになりますが、入学生の皆さんにはまずは健康に注意して、充実した学生生活を送っていただきたいと思っております。そして皆さんがこの北見の地での様々な体験を通じて、学業面ばかりでなく人間的にも大きく成長してくれることを心から願って、歓迎の挨拶といたします。

改めまして、入学おめでとうございます。

平成 27 年 4 月 6 日  
北見工業大学長 高橋 信夫



＝入試＝

平成 28 年度編入学学生募集要項の公表

(入 試 課)

平成 28 年度編入学学生募集要項が公表されました。概要は以下のとおりです。

選抜の種類	推薦入試・学力試験入試・社会人特別入試
学科及び募集人員	工学部全学科 推薦入試 10人 学力試験入試及び社会人特別入試 若干人
出願資格	推薦入試 (1) 高等専門学校・理工系の短期大学を平成 28 年 3 月卒業見込みの者 (ただし、商船高等専門学校商船学科については、平成 28 年 9 月卒業見込みの者) (2) 学校教育法第 132 条に規定する専修学校の専門課程（修業年限が 2 年以上で、かつ、課程の修了に必要な総授業時数が 1,700 時間以上であるものに限る。）を平成 28 年 3 月修了見込みの者（学校教育法第 90 条第 1 項に規定する者に限る。） 学力試験入試 (1) 大学を卒業した者又は平成 28 年 3 月卒業見込みの者 (2) 学校教育法第 104 条第 4 項の規定に基づき、大学評価・学位授与機構から学士の学位を授与された者又は平成 28 年 3 月までに授与される見込みの者 (3) 高等専門学校・短期大学を卒業した者又は平成 28 年 3 月までに卒業見込みの者 (ただし、商船高等専門学校商船学科については、平成 28 年 9 月卒業見込みの者) 等 社会人特別入試 入学時において企業等に正規の職員として 2 年以上在職中で、在職のまま入学することができ、所属長からの推薦がある者で、次のいずれかに該当するもの (1) 理工系の高等専門学校を卒業した者 (2) 理工系の短期大学を卒業した者 (3) 大学・学部の理工系学科を卒業した者又は大学・学部の理工系学科に 2 年以上在学し、62 単位以上を修得し退学した者
出願期間	推薦入試・社会人特別入試 5月7日(木)～5月13日(水) 学力試験入試 6月2日(火)～6月8日(月)
試験日	推薦入試・社会人特別入試 5月27日(水)(面接) 学力試験入試 6月24日(水)
合格発表	推薦入試・社会人特別入試 6月3日(水) 学力試験入試 7月8日(水)

## 平成 28 年度大学院工学研究科博士課程学生募集要項の公表

(入 試 課)

平成 28 年度大学院工学研究科博士課程学生募集要項が公表されました。概要は以下のとおりです。  
また、平成 27 年度大学院秋季入学の学生募集要項も同時に公表され、平成 28 年度入試の第 1 回募集と同一日程で実施されます。

### 平成 28 年度大学院工学研究科博士課程

	博士前期課程	博士後期課程																																									
専 攻	機械工学専攻、社会環境工学専攻、電気電子工学専攻、情報システム工学専攻、バイオ環境化学専攻、マテリアル工学専攻	生産基盤工学専攻 寒冷地・環境・エネルギー工学専攻 医療工学専攻																																									
選 抜 の 種 類	一般入試（学力試験入試・推薦入試） 学部 3 年次学生対象入試 社会人特別入試 外国人留学生特別入試 高等専門学校専攻科生特別入試	一般入試 社会人入試 外国人留学生入試																																									
募集人員	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 一般入試</li> </ul> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse; margin-top: 5px;"> <thead> <tr> <th rowspan="2"></th> <th colspan="2" style="text-align: center;">第 1 回</th> <th style="text-align: center;">第 2 回</th> </tr> <tr> <th style="text-align: center;">学力 試験</th> <th style="text-align: center;">推薦 入試</th> <th style="text-align: center;">学力 試験</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>機械工学専攻</td> <td style="text-align: center;">11</td> <td style="text-align: center;">11</td> <td rowspan="7" style="text-align: center; vertical-align: middle;">各専攻とも若干人</td> </tr> <tr> <td>社会環境工学専攻</td> <td style="text-align: center;">10</td> <td style="text-align: center;">10</td> </tr> <tr> <td>電気電子工学専攻</td> <td style="text-align: center;">10</td> <td style="text-align: center;">10</td> </tr> <tr> <td>情報システム工学専攻</td> <td style="text-align: center;">8</td> <td style="text-align: center;">8</td> </tr> <tr> <td>バイオ環境化学専攻</td> <td style="text-align: center;">9</td> <td style="text-align: center;">9</td> </tr> <tr> <td>マテリアル工学専攻</td> <td style="text-align: center;">8</td> <td style="text-align: center;">8</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">計</td> <td style="text-align: center;">56</td> <td style="text-align: center;">56</td> </tr> </tbody> </table> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 学部 3 年次学生対象入試 各専攻とも若干人</li> <li>・ 社会人特別入試 各専攻とも若干人</li> <li>・ 外国人留学生特別入試 各専攻とも若干人</li> <li>・ 高等専門学校専攻科生特別入試 各専攻とも若干人</li> </ul>		第 1 回		第 2 回	学力 試験	推薦 入試	学力 試験	機械工学専攻	11	11	各専攻とも若干人	社会環境工学専攻	10	10	電気電子工学専攻	10	10	情報システム工学専攻	8	8	バイオ環境化学専攻	9	9	マテリアル工学専攻	8	8	計	56	56	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 一般入試</li> </ul> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse; margin-top: 5px;"> <thead> <tr> <th></th> <th style="text-align: center;">第 1 回</th> <th style="text-align: center;">第 2 回</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>生産基盤工学専攻</td> <td style="text-align: center;">3</td> <td rowspan="4" style="text-align: center; vertical-align: middle;">若干人 各専攻とも</td> </tr> <tr> <td>寒冷地・環境・エネルギー工学専攻</td> <td style="text-align: center;">3</td> </tr> <tr> <td>医療工学専攻</td> <td style="text-align: center;">2</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">計</td> <td style="text-align: center;">8</td> </tr> </tbody> </table> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 社会人入試 各専攻とも若干人</li> <li>・ 外国人留学生入試 各専攻とも若干人</li> </ul>		第 1 回	第 2 回	生産基盤工学専攻	3	若干人 各専攻とも	寒冷地・環境・エネルギー工学専攻	3	医療工学専攻	2	計	8
	第 1 回		第 2 回																																								
	学力 試験	推薦 入試	学力 試験																																								
機械工学専攻	11	11	各専攻とも若干人																																								
社会環境工学専攻	10	10																																									
電気電子工学専攻	10	10																																									
情報システム工学専攻	8	8																																									
バイオ環境化学専攻	9	9																																									
マテリアル工学専攻	8	8																																									
計	56	56																																									
	第 1 回	第 2 回																																									
生産基盤工学専攻	3	若干人 各専攻とも																																									
寒冷地・環境・エネルギー工学専攻	3																																										
医療工学専攻	2																																										
計	8																																										
出願資格	大学を卒業した者又は平成 28 年 3 月までに卒業見込みの者 等	修士の学位若しくは専門職学位を有する者又は平成 28 年 3 月までに授与される見込みの者 等																																									

出願期間	第1回募集 平成27年6月15日(月)～6月25日(木) (推薦入試の併願を希望する者 平成27年6月8日(月)～6月12日(金)) (出願資格の事前審査 平成27年5月18日(月)～5月22日(金))  第2回募集 平成28年1月18日(月)～1月22日(金) (出願資格の事前審査 平成27年11月24日(火)～12月1日(火))	
試験日	第1回募集 学力試験 学力検査 平成27年8月24日(月) 面接試験 平成27年8月25日(火) 推薦入試 面接試験 平成27年7月1日(水)  第2回募集 学力試験 平成28年2月9日(火) 面接試験 平成28年2月10日(水)	第1回募集 面接試験 平成27年8月26日(水)  第2回募集 面接試験 平成28年2月9日(火)
合格発表	第1回募集 平成27年9月2日(水) ※推薦入試選考結果通知 平成27年7月8日(水)  第2回募集 平成28年2月17日(水)	第1回募集 平成27年9月2日(水) 第2回募集 平成28年2月17日(水)

平成27年度大学院工学研究科博士課程(秋季入学)

	博士前期課程	博士後期課程
専攻	機械工学専攻、社会環境工学専攻、電気電子工学専攻、情報システム工学専攻、バイオ環境化学専攻、マテリアル工学専攻	生産基盤工学専攻 寒冷地・環境・エネルギー工学専攻 医療工学専攻
選抜の種類	一般入試 社会人特別入試 外国人留学生特別入試	一般入試 社会人入試 外国人留学生入試
募集人員	<ul style="list-style-type: none"> <li>・一般入試 各専攻とも若干人</li> <li>・社会人特別入試 各専攻とも若干人</li> <li>・外国人留学生特別入試 各専攻とも若干人</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・一般入試 各専攻とも若干人</li> <li>・社会人入試 各専攻とも若干人</li> <li>・外国人留学生入試 各専攻とも若干人</li> </ul>
出願資格	大学を卒業した者又は平成27年9月までに卒業見込みの者等	修士の学位若しくは専門職学位を有する者又は平成27年9月までに授与される見込みの者等

出願期間	平成 27 年 6 月 15 日 (月) ～6 月 25 日 (木) (出願資格の事前審査 平成 27 年 5 月 18 日 (月) ～5 月 22 日 (金))	
試 験 日	学力検査 平成 27 年 8 月 24 日 (月) 面接試験 平成 27 年 8 月 25 日 (火)	面接試験 平成 27 年 8 月 26 日 (水)
合格発表	平成 27 年 9 月 2 日 (水)	平成 27 年 9 月 2 日 (水)



## 平成27年度科学研究費助成事業内定一覧

(研究協力課)

### ○新学術領域研究 (研究領域提案型)

所 属	職 名	氏 名	研 究 課 題	交付内定額 (単位：千円)	新規	継続
機械工学科	教授	大橋 鉄也	マルチスケール計算力学によるLPSO構造の変形と力学特性の解明	14,170		○

### ○基盤研究(B)一般

所 属	職 名	氏 名	研 究 課 題	交付内定額 (単位：千円)	新規	継続
社会環境工学科	教授	渡邊 康玄	節腹連続河道の形成機構の解明	7,150	○	
社会環境工学科	教授	川村 彰	MMS計測点群を直接利用した超写実VR環境の生成と感性情報に基づく走行路面評価	4,160		○
社会環境工学科	教授	山下 聡	オホーツク海網走沖ガスハイドレートの資源ポテンシャルと環境・災害インパクト	4,160		○
電気電子工学科	教授	田村 淳二	大規模ウインドファームを有する電力システムの総合的安定化	5,590	○	
情報システム工学科	准教授	榊井 文人	カーリングを科学する～情報機械技術を統合した新たな戦術支援の試み	7,930	○	
バイオ環境化学科	教授	齋藤 徹	界面分離型薬物捕捉場の創成と医療排水処理への適用	8,710	○	

### ○基盤研究 (B) 海外

所 属	職 名	氏 名	研 究 課 題	交付内定額 (単位：千円)	新規	継続
マテリアル工学科	教授	南 尚嗣	バイカル湖クイキャニオンのメタンハイドレート密集生成環境と機構の解明	4,290		○
環境・エネルギー研究推進センター	教授	八久保 晶弘	サハリン島西方沖タートルトラフの天然ガスハイドレート生成環境の解明	7,280		○

### ○基盤研究(C)一般

所 属	職 名	氏 名	研 究 課 題	交付内定額 (単位：千円)	新規	継続
機械工学科	教授	鈴木 聡一郎	冬季オリンピックでのメダル獲得を目標とする競技用スキースーツの開発	3,120		○
機械工学科	准教授	三戸 陽一	壁乱流内粒子分散機構の解明と予測の高度化	1,300		○
機械工学科	教授	山田 貴延	バイオガスハイドレートによるエネルギー循環型下水処理場へのCGS導入効果	520		○
機械工学科	准教授	林田 和宏	燃料性状と火炎構造が炭素質PMのナノストラクチャに及ぼす影響の解明	650		○
社会環境工学科	准教授	駒井 克昭	寒冷地固有の物質情報を利用した流域の環境動態解析の高度化	1,560	○	
社会環境工学科	准教授	宮森 保紀	構造全体系サーモグラフィと高密度モード同定によるハイブリッド損傷同定手法の開発	1,950	○	
社会環境工学科	准教授	白川 龍生	積雪の断熱効果を利用した温度差発電システムの開発とエネルギーの地産地消	2,080	○	
社会環境工学科	教授	中山 恵介	寒冷地域を中心とし永久凍土融解を考慮した閉鎖性水域から大気へのメタン発生量の推定	1,560		○
社会環境工学科	准教授	川口 貴之	寒冷地における埋設管のリスク評価	1,300		○
電気電子工学科	教授	谷本 洋	確率的フラッシュAD変換器の試作と設計手法の確立	1,430	○	
電気電子工学科	准教授	川村 武	UHF帯RF-IDによる車線の情報化と暴風雪悪視界下のナビゲーションシステム	1,560	○	
電気電子工学科	准教授	武山 眞弓	3D及び2.5D-ICに適用可能なバリヤレス絶縁膜の低温作製	2,080	○	
電気電子工学科	教授	柏 達也	760MHz帯を用いた交差点自動車衝突防止システムの開発に関する研究	1,430		○

所 属	職 名	氏 名	研 究 課 題	交付内定額 (単位：千円)	新規	継続
情報システム工学科	教授	三浦 則明	地表層補償光学に基づく超広視野太陽像回復の効果	2,600	○	
情報システム工学科	准教授	原田 建治	コロナ帯電を用いたソーダライムガラスへのホログラム記録の最適化とその応用	2,860	○	
情報システム工学科	准教授	早川 吉彦	統計的画像処理法と圧縮センシングによるコーンビーム型X線CT画像の高画質な再構成	1,690	○	
バイオ環境化学科	教授	吉田 孝	抗ウイルス性硫酸化糖鎖の生理活性作用メカニズムの解明	2,600	○	
バイオ環境化学科	准教授	佐藤 利次	RNAi法等によるシイタケ・ラッカーゼの生理的機能及び遺伝子発現メカニズムの解明	780	○	
バイオ環境化学科	准教授	新井 博文	ハマナス花弁由来加水分解性タンニンによるアレルギー抑制機序の解明	1,820		○
マテリアル工学科	助教	坂上 寛敏	ガスハイドレート生成に伴う包接炭化水素分子の安定同位体分別過程の解明	1,300		○
マテリアル工学科	教授	松田 剛	遷移金属酸化物の水素誘起高表面積化と表面機能の制御	910		○
マテリアル工学科	教授	平賀 啓二郎	高速超塑性ナノセラミックスにおける粒界損傷・破断機構	1,560		○
共通講座	准教授	笹川 渉	イングランドの内乱期と共和制下における民衆の祝祭と国王表象	1,300	○	
機器分析センター	准教授	大津 直史	人工関節予後不良を低減する難剥離性極薄Ag含有アパタイト被膜のワンステップ形成	1,040	○	
工学部	特任教授	鈴木 勉	凝集抑制可能な鉄触媒を用いるバイオマス炭の水蒸気ガス化による革新的水素製造	130		○

○挑戦的萌芽研究

所 属	職 名	氏 名	研 究 課 題	交付内定額 (単位：千円)	新規	継続
機械工学科	准教授	松村 昌典	ルーフトップ型集風塔風車を用いた住宅用風力発熱・発電併用システムの開発研究	650		○
社会環境工学科	教授	亀田 貴雄	斑点ぬれ雪の生成メカニズムの解明	2,080	○	
社会環境工学科	助教	山崎 新太郎	津波をもたらした沿岸水域地すべりの搜索とその地すべり形態科学	130		○
社会環境工学科	研究員	松本 経	北海道におけるオオワシ追跡型サケ産卵場探査と産卵資源予測	910		○
電気電子工学科	准教授	橋本 泰成	ブレイン・マシン・インタフェース技術を応用した嗅覚評価方法の開発	2,990	○	
電気電子工学科	教授	小原 伸哉	カーボンクロス担持触媒を用いた高エネルギー密度のガスハイドレート蓄電装置の研究	1,300		○
マテリアル工学科	教授	川村 みどり	有機単分子膜をナノ保護膜として活用した銀薄膜の環境耐性	780		○

○若手研究 (A) 一般

所 属	職 名	氏 名	研 究 課 題	交付内定額 (単位：千円)	新規	継続
社会環境工学科	助教	山崎 新太郎	雪上滑走型岩石なだれに関わる岩石と雪の相互作用の解明	5,980		○
バイオ環境化学科	准教授	小西 正朗	微生物由来界面活性物質の分子デザイン技術の高度化	11,440	○	

○若手研究 (B)

所 属	職 名	氏 名	研 究 課 題	交付内定額 (単位：千円)	新規	継続
機械工学科	准教授	星野 洋平	冗長アクチュエータ系の自己最適化によるスケーラビリティ獲得の研究	650		○
社会環境工学科	准教授	井上 真澄	コンクリート表面における亜硝酸イオンの溶出・浸透メカニズムと各種要因の影響	1,430	○	
社会環境工学科	助教	富山 和也	生体疲労計測に基づく時間依存性を考慮した合理的な走行路面評価手法の開発	1,430	○	

所 属	職 名	氏 名	研 究 課 題	交付内定額 (単位：千円)	新規	継続
社会環境工学科	助教	大野 浩	エネルギー輸送・貯蔵に向けた界面活性剤によるガスハイドレート生成促進効果の解明	910		○
社会環境工学科	助教	吉川 泰弘	寒冷地河川管理のための河氷閉塞メカニズムを考慮した河氷変動計算モデルの開発	1,040		○
社会環境工学科	准教授	中村 大	岩質・亀裂・風化を考慮した実岩盤斜面における凍上危険性の評価	780		○
電気電子工学科	助教	酒井 大輔	表面構造と内部屈折率分布により実現する新しい反射防止ガラスの創製	1,690	○	
情報システム工学科	助教	ブタシンスキミハウ	FeelHelper：被害者双方に着目したネットいじめ対策のための技術の開発	1,560	○	
マテリアル工学科	准教授	大野 智也	多様な炭素資源からの水素製造を指向した次世代触媒の開発	1,560	○	
マテリアル工学科	助教	古瀬 裕章	高品質希土類添加透光性アルミナ多結晶体の開発と特性評価	2,080	○	
マテリアル工学科	助教	浪越 毅	ポリフェニルアセチレン膜の光環化反応によるスマート超分子自立膜の創製	910		○
共通講座	准教授	春木 有亮	近現代フランス習慣論の美学的射程—「創造」と「飽き」	650	○	
共通講座	准教授	戸澤 隆広	縮約関係節と比較節の統語論研究によるラベル決定の仕組みの解明	650	○	
国際交流センター	特任講師	末繁 美和	視点表現の運用能力育成に重点を置いたオンライン学習交流用教材の開発	650	○	

○奨励研究

所 属	職 名	氏 名	研 究 課 題	交付内定額 (単位：千円)	新規	継続
技術部	室長	中西 喜美雄	CO <sub>2</sub> ハイドレートの短期生成・長期保存	500	○	

## 平成27年度共同研究の受入状況

平成27年5月31日現在

(研究協力課)

所 属	職 名	研究代表者	研 究 題 目	民 間 機 関 等
社会環境工学科	准教授	中村 大	積雪寒冷環境が土中埋設管に及ぼす種々の影響についての研究	北海道ガス株式会社 技術開発研究所
電気電子工学科	教授	小原 伸哉	両面受光型太陽光発電システムに関する研究	PVG Solutions株式会社/株式会社KITABA
機械工学科	教授	佐々木 正史	環北極陸域システムの変動と気候への影響	大学共同利用機関法人情報・システム研究機構 国立極地研究所
社会環境工学科	教授	亀田 貴雄	地球温暖化における北極圏の積雪・氷河・氷床の役割	大学共同利用機関法人情報・システム研究機構 国立極地研究所
社会環境工学科	准教授	館山 一孝	北極海航路の利用可能性評価につながる海水分布の将来予測	大学共同利用機関法人情報・システム研究機構 国立極地研究所
機器分析センター	准教授	大津 直史	リン酸カルシウム被覆マグネシウム表面の表面特性に関する研究	独立行政法人物質・材料研究機構
社会連携推進センター	教授	有田 敏彦	ポリマーがいの塩分付着特性に関する研究	東北電力株式会社 研究開発センター/ 日本ガイシ株式会社 電力事業本部電力技術研究所
社会連携推進センター	教授	有田 敏彦	精神科病院のマネジメントに関する研究	医療法人社団拓美会 玉越病院
マテリアル工学科	助教	古瀬 裕章	希土類添加透光性アルミナ多結晶体の創製	独立行政法人物質・材料研究機構
社会環境工学科	准教授	館山 一孝	雪氷状態モニタリング技術の開発	独立行政法人宇宙航空研究開発機構/ 株式会社センテナリア
電気電子工学科	教授	柏 達也	電磁波測定環境における電磁波の反射、吸収の解析	E&Cエンジニアリング株式会社
社会環境工学科	准教授	中村 大	積雪寒冷地における切土法面の凍土対策に関する研究	独立行政法人土木研究所 寒地土木研究所
機械工学科	教授	山田 貴延	潜熱蓄熱によるローエクセルギー活用の研究（小型蓄熱層の研究）	北海道ガス株式会社 技術開発研究所
社会環境工学科	教授	川村 彰	高速道路における走行快適性に関する共同研究	株式会社高速道路総合技術研究所
情報システム工学科	准教授	前田 康成	知能情報処理技術のヘルスケアへの対応	アドバンストヘルスケア株式会社
電気電子工学科	准教授	吉澤 真吾	水中音響通信装置の実証検証	三菱電機特機システム株式会社
機器分析センター	准教授	大津 直史	貴金属量低減水素分離膜の劣化原因解析	JX日鉱日石エネルギー株式会社 中央技術研究所
社会環境工学科	教授	三上 修一	エポキシ樹脂系コンクリート補修材の寒冷地性能確認試験に関する研究	日本国土開発株式会社 技術センター
社会環境工学科	准教授	川口 貴之	地山補強土工用受圧板の寒冷地適応性向上に関する検討	日特建設株式会社
社会環境工学科	教授	川村 彰	STAMPER IIおよびFWDの測定結果を用いた舗装の構造評価	大成ロテック株式会社
社会環境工学科	教授	川村 彰	改良型STAMPER IIとFWDを組み合わせた“改良型舗装の評価システム”の補完	ティーアール・コンサルタント株式会社
マテリアル工学科	教授	南 尚嗣	網走市における下水汚泥および放流水中成分の長期モニタリング研究	網走市
マテリアル工学科	教授	南 尚嗣	網走市能取汚水処理施設における放流水中成分の長期モニタリング研究	網走市
電気電子工学科	教授	黒河 賢二	光ファイバへの入力パワー限界に関する検討	日本電信電話株式会社 アクセスサービスシステム研究所
マテリアル工学科	教授	南 尚嗣	紋別市における下水汚泥・放流水中の有害微量成分の定量に関する長期的研究	紋別市下水道事業
マテリアル工学科	教授	村田 美樹	美幌町における下水汚泥・放流水中の微量成分の長期モニタリングに関する研究	美幌町
マテリアル工学科	助教	浪越 毅	シクロオレフィン系ビニルエーテルポリマーの研究	日本ゼオン株式会社

所 属	職 名	研究代表者	研 究 題 目	民 間 機 関 等
情報システム工学科	准教授	榊井 文人	カーリング競技の戦略シミュレータに関する研究	株式会社AIS北海道
マテリアル工学科	助教	坂上 寛敏	斜里町における環境試料（下水汚泥・放流水）中の微量環境有害成分の定量に関する長期的研究	斜里町
応用研究推進センター	特任教授	山岸 喬	北海道産ハマナスとラベンダー由来の芳香成分の抽出、分離および実用化	株式会社ハーバー研究所
共同研究推進センター	特任教授	大島 俊之	社会基盤の維持・補修設計に関わる技術支援制度の実践運用のための共同研究	網走測量設計協会
社会環境工学科	教授	中山 恵介	北見市一般廃棄物処理に関する環境調査並びにごみ質調査共同研究	北見市
バイオ環境化学科	准教授	新井 博文	常呂産ニンニク及びタマネギを用いた原料・製品の抗酸化活性に関する研究	日本製薬工業株式会社
応用研究推進センター	特任教授	山岸 喬	常呂産タマネギを用いた熟成加工方法に関する研究	日本製薬工業株式会社
社会環境工学科	教授	中山 恵介	北見市環境調査研究（大気、水質、騒音・振動、臭気、ダイオキシン類）	北見市
バイオ環境化学科	教授	吉田 孝	硫酸化糖鎖の抗ウイルス性を増強する長鎖アルキル鎖の作用メカニズム	大学共同利用機関法人自然科学研究機構 分子科学研究所

平成27年度累計36件

## 平成27年度受託研究の受入状況

平成27年5月31日現在

(研究協力課)

所 属	職 名	研究担当者	研究題目	委託機関	所要経費
機械工学科	教授	大橋 鉄也	ヘテロナノ構造およびその集合体に生ずる変形挙動のメゾスケール結晶塑性解析	独立行政法人科学技術振興機構	円 10,140,000
社会環境工学科	准教授	舘山 一孝	氷海開発を支援するための高精度氷況観測技術の開発	独立行政法人海上技術安全研究所	15,529,519
機械工学科	教授	大橋 鉄也	疲労と破壊の科学/多種・多数界面とき裂の相互作用シミュレーション	独立行政法人科学技術振興機構	5,750,000
バイオ環境化学科	教授	齋藤 徹	高効率・低環境負荷スポット型医療排水浄化装置の設計	独立行政法人科学技術振興機構	1,000,000
機器分析センター	准教授	大津 直史	室内照明下で抗菌性を示す高密着性TiO <sub>2</sub> 被膜チタン材料の開発	独立行政法人科学技術振興機構	1,650,000
工学部	特任教授	鈴木 勉	農林産物由来の物質を用いた高性能・高環境性・低価格なナノ潤滑添加剤の開発	国立大学法人岡山大学	4,093,000
社会連携推進センター	センター長	川村 彰	農業残渣である北見産紫蘇水を利用した忌避剤及び食品洗浄剤の商品化	企業組合北見産学医協働センター	0
社会環境工学科	教授	中山 恵介	湿原の効果および融雪期の特徴を再現できる洪水予測モデルの開発	釧路開発建設部	1,403,000

平成27年度累計8件

## 平成27年度奨学寄附金の受入状況

平成27年5月31日現在

(研究協力課)

所 属	職 名	研究者	寄附目的	寄附者	寄附金額 円
電気電子工学科	准教授	吉澤 真吾	研究調査助成のため	公益財団法人電気通信普及財団	900,000
機械工学科	准教授	高井 和紀	躯体の掃気に関するシミュレーション解析等	ジェイバック株式会社	150,000
マテリアル工学科	助教	浪越 毅	学術研究に要する経費 教育研究の奨励を目的とする経費	日本ゼオン株式会社	500,000
	学長	高橋 信夫	父母懇談会及び就職支援等の事業を推進するため	北見工業大学学生後援会	1,500,000
バイオ環境化学科	教授	佐藤 之紀	平成26年度学術研究助成金として	公益財団法人飯島藤十郎記念食品科学 振興財団	1,950,000
機器分析センター	准教授	大津 直史	銀徐放性抗菌材料の共同開発のため	エビナ電化工業株式会社	2,000,000
機械工学科	准教授	高井 和紀	住宅室内空気質の分析調査	特定非営利活動法人日本VOC測定協会	1,000,000
社会環境工学科	教授	三上 修一	学術研究に要する経費	東亜グラウト工業株式会社北海道支店	600,000
電気電子工学科	教授	平山 浩一	マイクロ波帯回路の研究	株式会社関東電子応用開発	300,000
社会環境工学科	教授	亀田 貴雄	雪氷分野の研究奨励	株式会社清月	13,485
社会環境工学科	准教授	宮森 保紀	工学研究のため	一般社団法人日本鉄鋼連盟	900,000
	学長	高橋 信夫	学生に対する支援	北見工業大学後援会	668,017
社会環境工学科	准教授	井上 真澄	コンクリートの凍害とアルカリ骨材反応との複合劣化に 関する資料収集	株式会社フジエンジニアリング	500,000
社会環境工学科	准教授	宮森 保紀	橋梁モニタリング技術の開発研究のため	株式会社フジエンジニアリング	800,000
電気電子工学科	准教授	武山 眞弓	研究のため	北見工業大学電気電子工学科	100,000
社会環境工学科	准教授	白川 龍生	道路の冬期気象特性に関する研究	株式会社構研エンジニアリング	500,000
共通講座	准教授	野田 由美意	美術に関する調査研究のため	北見工業大学共通講座	600,000

平成27年度累計17件

= 人事 =

人 事 異 動

(総務課)

○大学発令

発令年月日	現職名	氏名	新職名(発令事項)
27.3.30	事務局長	小椋 史朗	辞職(文部科学省へ転出)
27.3.31	工学部教授	谷藤 忠敏	定年退職
〃	工学部教授	鈴木 勉	定年退職
〃	工学部教授	堀内 淳一	辞職(京都工芸繊維大学へ転出)
〃	工学部教授	照井 日出喜	定年退職
〃	工学部講師	クラロ, ジェニファー スーザン	任期満了退職
〃	工学部助教	三浦 節男	任期満了退職
〃	総務課長	三浦 哲也	辞職(旭川医科大学へ転出)
〃	企画広報課長	内藤 真一	辞職(苫小牧工業高等専門学校へ転出)
〃	財務課長	吉田 茂	辞職(北海道大学へ転出)
〃	施設課長	荒谷 正樹	辞職(小樽商科大学へ転出)
〃	入試課長	斉藤 仁史	定年退職
〃	情報図書課長	岸本 一志	辞職(北海道大学へ転出)
〃	研究協力課副課長	小野 恵子	定年退職
〃	技術部学部・大学院支援室長	久松 茂	定年退職
27.4.1	理事・副学長	吉田 孝	研究支援本部長 (任期:平成28年3月31日まで)
〃	理事・副学長	田村 淳二	教育支援機構長 (任期:平成28年3月31日まで)
〃	工学部教授	野矢 厚	社会連携推進機構長 (任期:平成28年3月31日まで)
〃	工学部教授	川村 彰	産学官連携研究推進本部長及び 共同研究推進センター長 (任期:平成28年3月31日まで)
〃	工学部教授	阿部 良夫	機器分析センター長 (任期:平成28年3月31日まで)
〃	(新規採用)	柴田 浩行	工学部教授
〃	(新規採用)	佐藤 之紀	工学部教授
〃	工学部准教授	八久保 晶弘	工学部教授
〃	工学部准教授	許斐 ナタリー	工学部教授
〃	工学部助教	高井 和紀	工学部准教授
〃	工学部助教	小西 正朗	工学部准教授



発令年月日	現職名	氏名	新職名（発令事項）
27.4.1	工学部助教	霜鳥 慈岳	工学部准教授
〃	(新規採用)	野田 由美意	工学部准教授
〃	(新規採用)	クラロ, ジェニファー スーザン	工学部講師
〃	(新規採用)	吉田 裕	工学部助教
〃	(新規採用)	渡邊 達也	工学部助教
〃	(新規採用)	平井 慈人	工学部助教
〃	文部科学省大臣官房付	茶島 豊	事務局長 (学長企画室長兼務)
〃	学生支援課長	富樫 剛	総務課長
〃	北海道教育大学学務部教務課係長	山口 文章	財務課長
〃	北海道大学施設部施設整備課課長補佐	松川 朋実	施設課長
〃	北海道大学学務部学生支援課長	高橋 伸治	学生支援課長
〃	旭川医科大学教務部入試課長	長縄 保則	入試課長
〃	北海道大学附属図書館利用支援課 課長補佐	吉竹 忍	情報図書課長
〃	企画広報課学長企画室副室長 (企画広報課副課長同係長兼務)	久田 貢	学長企画室副室長
〃	総務課副課長	坂田 寿	総務課副課長 (係長兼務)
〃	文部科学省国際統括官付専門職	二村 肇	研究協力課副課長 (係長兼務)
〃	財務課係長 (企画広報課学長企画室係長兼務)	内山 彰	学長企画室係長 (学生支援課専門職員兼務)
〃	北海道大学財務部主計課主任	足利 誠	総務課係長
〃	総務課係長	菊池 一修	財務課係長
〃	研究協力課係長 (企画広報課学長企画室係長兼務)	白鳥 善裕	研究協力課係長
〃	企画広報課係長	斉藤 靖子	研究協力課係長
〃	情報図書課主任	中山 美雪	情報図書課係長
〃	情報図書課専門職員	池田 幸代	情報図書課係長
〃	情報図書課係長	船木 敦子	情報図書課専門職員
〃	総務課主任	西尾 貴則	出向(独立行政法人国立青少年教育振興機 構国立大雪青少年交流の家)
〃	企画広報課学長企画室事務職員 (企画広報課事務職員兼務)	中村 圭吾	学長企画室主任
〃	財務課事務職員	山本 至	財務課主任
〃	学生支援課事務職員	後藤 将大	学生支援課主任
〃	入試課事務職員	反保 聡史	入試課主任
〃	財務課事務職員	奥村 由理香	総務課事務職員(文部科学省研修生)
〃	企画広報課事務職員	反保 恵佳	総務課事務職員

発令年月日	現職名	氏名	新職名（発令事項）
27.4.1	(新規採用)	安藤 ひかる	総務課事務職員
〃	(新規採用)	和田 晃明	財務課事務職員
〃	技術部学部・大学院支援室ものづくり支援グループ長	小畑 芳弘	技術部学部・大学院支援室長
〃	技術部学部・大学院支援室機器分析支援グループ計測システム係長	大森 誠一	技術部大学運営支援室情報処理支援グループ長
〃	技術部大学運営支援室情報処理支援グループ長	森脇 幸伸	技術部大学運営支援室技術専門員
〃	技術部学部・大学院支援室技術専門員	堂田 誠治	技術部学部・大学院支援室ものづくり支援グループ長
〃	技術部学部・大学院支援室機器分析支援グループ技術専門職員	布川 裕	技術部学部・大学院支援室技術専門員
〃	技術部学部・大学院支援室機器分析支援グループ技術専門職員	信山 直紀	技術部学部・大学院支援室技術専門員
〃	技術部学部・大学院支援室機器分析支援グループ技術専門職員	橋本 晴美	技術部学部・大学院支援室機器分析支援グループ計測システム係長
27.6.1	財務課主任	福崎 隼人	辞職

## 厚谷元学長に叙勲「瑞宝中綬章」を受章

(総務課)

平成27年春の叙勲において、本学の厚谷元学長が瑞宝中綬章を受章されました。

厚谷元学長におかれましては、昭和46年4月に本学工学部に助教授として赴任された後、昭和51年11月に教授に昇任されました。

以来、「分析化学」等の専門分野において幾多の優れた研究論文を発表され、特に、固体資料直接分析方法開発研究は、日本だけでなくドイツ分析化学会や米国分析化学会の学術論文誌等にも多数の論文が発表されました。また、この研究成果に基づく分析部品が、日本最大の分析機器メーカーから、市販されるなど、学会はもとより分析化学関連の産業界の発展にも大きく貢献されました。

また、本学学生部長、附属図書館長、学

長を歴任され、一般教養・学科の改組、情報工学科・機能材料工学科の新設、大学院博士後期課程の設置等に多大な貢献を果たされました。特に、平成8年4月に本学第6代学長に就任後は、国際交流の活性化、学寮の改築、国際交流会館の新設、機器分析センター、未利用エネルギー研究センター、サテライト・ベンチャー・ビジネス・ラボラトリー、総合研究棟の設置等、本学の基盤整備にご尽力され、平成14年3月に任期満了により退職されるまでの31年の長きにわたり、本学の教育・研究の発展に多大なご功績を残されました。

これら数々のご功績により、5月13日(水)に勲記・勲章の伝達を受け、同日皇居に参内し天皇陛下に拝謁されました。

## 平成27年度北見工業大学技術セミナー（技術士養成支援講座）を開講

（研究協力課）

平成27年度の技術セミナー（技術士養成支援講座）を、4月10日（金）に札幌サテライトで、4月18日（土）に本学で開講しました。

本講座は平成19年から行われているもので、北見及び札幌在住の本学出身技術士が中心となり、技術士の資格取得希望者を対象に、受講者自らが学ぶ姿勢を重視しつつ、講義や添削指導により資格取得を支援するものです。

開講期間は4月から7月までの計4回で、開講時間も18時以降及び土曜日の午後とし、社会人が受講しやすいよう設定してい

ます。

受講生は両会場合わせて24人で、帯広等遠方から通われる方もおり、参加者の技術士資格取得に向けての意気込みが感じられます。

開講式当日は、札幌会場は吉田孝理事から、また北見会場は野矢厚副学長からの開講挨拶に続き、講師の自己紹介が行われました。

開講式後の講義では、合格者による体験談の報告も交えて講義が行われました。今年度も受講生から多数の合格者が出ることを期待されます。



札幌会場開講式で挨拶する吉田理事



北見会場開講式で挨拶する野矢副学長

## 北海道中小企業家同友会オホーツク支部総会第2部特別報告での報告

(社会連携推進センター)

4月20日(月)、北海道中小企業家同友会オホーツク支部が今年度の総会を開催しました。総会の第2部として行われた特別報告において、内島典子産学官連携コーディネーターが「大学の活用」について報告を行いました。この報告は、2月23日(月)に開催したシンポジウム「地域企業による『大学活用の成功事例』と『大学の使い方』」において発信した情報を、改めて同支部会員の方々にも広く伝えるために行われたものです。

会場に集まった約70の方々、具体的に大学を活用する視点や大学を活用する際

の窓口について、研究に限らず教育面そして大学が有するハードやソフト面を活用できることについてお話ししました。総会に引き続き開催された懇談会では、多くの企業から本学への大きな期待を実感しました。また、後日には企業から大学の活用に関する問い合わせもあり、今回の報告の成果を感じました。

同支部と本学は、平成16年度に包括協定を結んでいます。これまで以上の連携の拡大強化に向けて、ステップを進める貴重な場となりました。

## 北見工業大学社会連携推進センター推進協議会総会を開催

(社会連携推進センター)

北見工業大学社会連携推進センター推進協議会総会が、4月23日（木）本学において開催されました。

本協議会は、本学の社会連携推進センターを中心として、オホーツク地域の行政・民間機関との共同研究、研究交流、技術の指導・教育・開発などを推進することを目的とし、北見市の呼びかけに応じて、地域の産業界が中心となり平成5年3月に設立されました。

上記の目的を達成するために、社会連携推進センターは毎年本協議会から、地域に貢献していくための貴重な活動資金をご支援いただいております。

総会には、永田正記協議会会長をはじめ地域産業界から委員の方々が、また種々公組織から顧問の方々が、そして本学からは吉田孝理事、川村彰社会連携推進センター

長ら関係者が出席し、平成26年度の事業・決算報告及び平成27年度の事業計画・予算が審議されました。

本学の川村センター長及び有田教授からは、地域における事業活動状況について報告がありました。また、本年度に本学を会場として開催される産学連携学会第13回大会についての説明があり、本協議会からもご支援いただくことが確認されました。

さらに、地方における若い世代の人口減少や就職状況の課題などについて意見が出され、大学に対して、地域で必要な人材育成にご協力願いたいとの強い要望がありました。

今後も地域からのご支援・ご期待にしっかりと応えるべく決意を新たにした総会でした。



協議会総会の様子

## 地元企業合同説明会を開催

(学生支援課)

4月25日(土)、本学講義室において「地元企業合同説明会」を開催しました。

本説明会は、地元の専門学校や大学に通う学生が北見市内の企業に就職し、地域経済活性化を促す目的のもと、本学、北見商工会議所、北見市大卒者情報センター、そしてKITげんき会との共催で初めて開催さ

れたものです。

自動車ディーラーや金融、建設、情報サービス、公務など27社・団体の参加があり、来春卒業予定の本学学生や専門学校生ら約40名が参加しました。セミナー会場では、参加した学生らが担当者の話を熱心に聴く姿が見受けられました。



全体説明会の様子



個別セミナーの様子

## 文献検索講習会を実施

(情報図書課)

図書館では、研究室単位や友人同士など、少人数を対象とした文献検索講習会を、昨年度後期からはじめました。今年度も5月から実施しています。

今年度の講習会は、昨年度行っていたデータベースを利用した論文の探し方を中心とした「データベース編」に加え、新たに蔵書目録を利用して図書館資料を探す「入門編」を行うことにしました。

「入門編」の講習会は5月末で終了し、期

間中4組21名の学生が受講しました。また、「データベース編」の講習会には5月中に3組21名の学生が受講し、「参考になった」、「助かった」といった意見が寄せられるなど、受講した学生に好評でした。

「データベース編」の講習会は、7月中旬まで受講申込みを受け付けています。図書館では今後も学生の学修活動に役立てるよう、文献検索講習会などの活動を充実させていきます。



入門編の様子



データベース編の様子



## 平成 27 年度構内美化作業を開始

(施 設 課)

本学で恒例となっている「構内美化作業」を、今年度は5月11日(月)から開始しました。この取り組みは、夏季休暇期間を除いた10月下旬までの間、3週間に1度、昼休みを利用して学生・教職員が共同で構内及び周辺道路の清掃を実施するものです。

当日は晴天に恵まれ、絶好の作業日和と

なりました。作業に先立ち、高橋信夫学長からの挨拶に続いて、本学の環境保全学生委員会 (KITeco) から、ごみの分別に関する説明が行われました。

残りの実施回数は計5回となりますが、今年度も学生及び教職員の美化意識の向上が期待されます。



美化作業開始の挨拶をする高橋学長



ごみの分別の説明をするKITeco



構内美化作業の様子



ごみ収集場所における分別の様子

## オホーツク新エネルギー開発推進機構総会

(社会連携推進センター)

5月14日(木)、オホーツク新エネルギー開発推進機構の総会が開催されました。

本機構は、広く新エネルギーの普及・啓蒙や利活用に関する活動を進めています。北海道電力株式会社、北海道ガス株式会社、京セラ株式会社を含むエネルギー関連企業や研究会などで構成されており、本学の田村淳二副学長が会長を務めています。

本機構では、本学の卒業生が社長をしている株式会社KITABAとPVGソリューションズ株式会社、そして本学の共同事業・研究により、両面太陽光発電システムの実証実

験を推進しています。総会では、その研究結果として、それぞれ北見市とエネルギー関連の共同研究を行っているバイオ環境化学科 岡崎文保准教授と社会環境工学科 館山一孝准教授から報告が行われました。

また、総会では、本機構と電気電子工学科 高橋理音准教授との共同研究が行われることが承認されました。今後も、オホーツクのエネルギーについて地域との関係をしっかりと構築し、研究も含めた関連活動を推進していきます



田村会長の挨拶



意見交換

## 北見市産学官連携推進協議会総会

(社会連携推進センター)

5月19日(火)、北見市産学官連携推進協議会の総会が開催されました。

この協議会は、北見市、北見商工会議所、そして本学のトップが膝を交えて意見交換できる場として、産業クラスター研究会オホーツクなどの活動を支援する目的で設置されました。会長は、本学の吉田孝理事が務めています。

総会では、本協議会の活動の一環である「市内中小企業と大学等との共同研究(略称)」として昨年度に推進された耐震木製

書架、玩具療法用玩具、ピンクニンニク惣菜などの開発について報告がなされました。また、今年度は、日本赤十字北海道看護大学の「北見地域の冬期被災を想定した避難環境の検証と北見発おいしい非常食の検討」と、本学社会連携推進センターの「北見地域の食材活用に関する連携事業」を推進することが決定されました。

本協議会からのご支援を効果的な活動へつなげたいと思っています。



吉田会長の挨拶



共同研究のプレゼンテーション

## オホーツク「木」のフェスティバルに参加

(研究協力課・社会連携推進センター)

5月22日（金）から3日間、サンライフ北見をメイン会場に開催された第30回2015オホーツク「木」のフェスティバルに、マネジメント工学コースの学生を中心に参加しました。

本フェスティバルは、オホーツク地域の林業・林産業の振興を目的に、オホーツク圏が誇る木の工芸品、食器、家具からログハウス、木材まで、木に関連する製品や技術などを全国に向けアピールする展示・販売・情報発信イベントです。同時に、木のぬくもりや優しさを伝え、訪れる人に森林への関心を高めてもらう環境意識醸成の場としても大きな役割を果たしています。

本学からの参加として、今年も子供を対象とした「木と遊ぼう」のコーナーを開催しました。今回は「絵馬を作ろう」をテーマに、関係団体から端材やのこぎりを調達し、子供と一緒に絵馬を作りました。子供たちにのこぎりの使い方などを教えながら、学生自身も様々なことを学んだ様子でした。

また、ポスター展示として、地域の特色を色濃く反映したスキーツーツやカーリング技術、南極氷床ボーリング技術、海氷、雪氷などに関する本学での研究を紹介し、広く大学の広報を行いました。

これからも、地域におけるイベントへの貢献、大学広報を積極的に進めていきます。



木工体験をする参加者たち



参加者が作ったさまざまな絵馬

## = 日誌 =

### 4 月

- 2日 社会連携推進センター運営会議
- 6日 入学式、新入生ガイダンス（全体）、オ  
ホーツク産学官融合センター事務局会議
- 7日 新入生ガイダンス（系列）
- 8日 教授会、研究科委員会、研究活動の不正防  
止説明会、前期授業開始
- 10日 技術セミナー（技術士養成支援講座）札幌  
会場開講式
- 15日 教育研究評議会、地域連携・国際交流委員  
会
- 18日 技術セミナー（技術士養成支援講座）北見  
会場開講式
- 20日 人を対象とする研究倫理審査委員会
- 21日 教務委員会
- 23日 社会連携推進センター推進協議会総会、学  
生委員会
- 25日 地元企業合同説明会
- 28日 高大連携連絡会議、入試企画センター運営  
会議

### 5 月

- 7日 社会連携推進センター運営会議、入学者選  
抜委員会、編入学試験（推薦入試）出願受  
付（～13日）
- 8日 オホーツク産学官融合センター事務局会議
- 11日 平成27年度構内美化作業を開始
- 12日 地域連携・国際交流委員会、教務委員会、  
学力検査実施委員会
- 18日 大学院入学試験出願資格事前審査申請受付  
（～22日）
- 19日 発明審査委員会
- 20日 教育研究評議会
- 21日 学生委員会
- 27日 広報委員会、人を対象とする研究倫理審査  
委員会、編入学試験（推薦入試）面接試験